



2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月10日

上場取引所 東

上場会社名 共同ピーアール株式会社
コード番号 2436 URL <https://www.kyodo-pr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 谷 鉄也

問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部部長 (氏名) 信澤 勝之 TEL 03-6260-4850

四半期報告書提出予定日 2023年8月10日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	3,263	47.8	447	4.1	454	1.0	243	△27.4
2022年12月期第2四半期	2,208	-	429	138.7	449	139.0	336	195.8

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 293百万円 (△16.9%) 2022年12月期第2四半期 353百万円 (209.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	28.32	27.82
2022年12月期第2四半期	40.50	40.09

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前連結会計年度の期首から適用しており、2022年12月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準を適用した後の数値となっております。売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 当社は、2022年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第2四半期	4,939	2,994	54.5
2022年12月期	5,008	2,777	50.4

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 2,691百万円 2022年12月期 2,524百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	-	0.00	-	8.00	8.00
2023年12月期	-	0.00	-	-	-
2023年12月期(予想)	-	-	-	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,300	19.7	770	6.9	770	4.6	455	△12.6	53.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期2Q	8,746,992株	2022年12月期	8,742,192株
② 期末自己株式数	2023年12月期2Q	131,418株	2022年12月期	76,414株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期2Q	8,611,666株	2022年12月期2Q	8,297,303株

(注) 2022年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、期中平均株式数については、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についての注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」の「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年1月1日～2023年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による規制が徐々に緩和され、社会経済活動も緩やかに回復に向かう動きが見られるものの、エネルギーや原材料価格の高騰、為替相場の変動、ウクライナ情勢の長期化、米国・欧州各国の政策金利引き上げなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループにおきましては、みずほフィナンシャルグループが推進している法人顧客を対象としたDX支援の取り組み「みずほデジタルコネクト」にパートナー企業として参画し、PR事業分野の積極的な活動を実施しました。

さらに、AI・ビッグデータソリューション事業分野では、Salesforce社が提供するビジュアル分析プラットフォームの導入支援や、株式会社アデランスが第一著者となる論文のデータ分析業務を担当するなど、高い技術力を示すことができました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は3,263百万円、(前年同期比47.8%増)、営業利益447百万円(同4.1%増)、経常利益454百万円(同1.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益243百万円(同27.4%減)となりました。

各セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、前第2四半期連結会計期間より、当社グループの報告セグメントを、「PR事業」、「インフルエンサーマーケティング事業」、「AI・ビッグデータソリューション事業」に変更しております。これは、2022年6月より株式会社キーウォーカーを子会社化したことによるサービス事業の展開に伴い、事業実態に即して報告セグメントを変更したのになります。

前第2四半期連結累計期間においては、株式会社キーウォーカーの貸借対照表のみを連結しているため、「③AI・ビッグデータソリューション事業」については、前第2四半期累計期間と比較しての増減額および前年同期比(%)を記載せずに説明しております。

①PR事業

約80か国のPR関連会社が加盟している「Global Com PR Network」の国際会議を今秋、日本に初誘致することが決定し、PR業界の機運が高まっていることを背景に、第1四半期連結会計期間に引き続き、新規リタイナー契約の獲得及び既存・新規顧客からのオプション&スポット案件の獲得に注力し、国内外の事業会社、官公庁・自治体・各種団体からの大型案件を複数受注し堅調に推移しました。また、新たな収益モデルとして広報・PR業務の一元管理を実現したSaaS型ビジネスの「PR-FORCE」がみずほフィナンシャルグループの「みずほデジタルコネクト」の取り組みに選定されたことにより、デジタル技術を活用してビジネスモデルの変革・生産性向上を実現し、企業価値・競争力を高めたいとの課題感のある法人顧客に広くリーチすることができました。

この結果、PR事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は2,501百万円(前年同期比29.2%増)、セグメント利益428百万円(同2.8%増)となりました。

②インフルエンサーマーケティング事業

人気クリエイターユニットHoneyWorksの楽曲提供を受け、専属タレント「星乃夢奈」が1stシングルをリリースし、TikTok Weekly Top 20で3位、TikTok上で1.5億回を超える再生回数を記録しました。

自社タレント育成にも継続的に力を入れており、めるぶちの妹分となるユニット「めるぶちシスターズ」二期生オーディションを開催、新メンバー8名が合流するなど所属タレントもさらに充実し、新規・既存SNSマーケティング案件の獲得を推進しました。

この結果、外注費等の売上原価の増加はあったものの、インフルエンサーマーケティング事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は365百万円(前年同期比34.4%増)、セグメント利益8百万円(同64.5%減)となりました。

③AI・ビッグデータソリューション事業

Salesforce社が提供するビジュアル分析プラットフォーム Tableauの導入・活用支援のコンテンツが好評を博し、Salesforce Japan Partner Award 2023を受賞するとともに、多数のクライアントがデータドリブンな企業への第一歩を踏み出す支援を行ってまいりました。

また、株式会社アデランスを第一著者とする8企業・団体とともに、「機械学習アルゴリズム、ランダムフォレストを用いた毛髪による疾患マーカーの探索」に関する論文が日本人間ドック学会誌「人間ドック」に掲載され、データ分析を担当したキーウォーカー社の高いデータ解析技術力が証明されました。

この結果、各サービスが好調に伸びた影響により、AI・ビッグデータソリューション事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は396百万円、セグメント利益73百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

①財政状態の変動状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は3,608百万円となり、前連結会計年度末に比べ73百万円減少いたしました。これは主に、受取手形が27百万円、売掛金が49百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は1,331百万円となり、前連結会計年度末に比べ5百万円増加いたしました。これは主に、無形固定資産が40百万円減少した一方で、投資その他の資産が43百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は4,939百万円となり、前連結会計年度末に比べ68百万円減少いたしました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,287百万円となり、前連結会計年度末に比べ180百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が31百万円、一年内返済予定の長期借入金が10百万円、未払金が75百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は657百万円となり、前連結会計年度末に比べ104百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金が71百万円、役員退職慰労引当金が32百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は1,945百万円となり、前連結会計年度末に比べ285百万円減少いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は2,994百万円となり、前連結会計年度末に比べ216百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が174百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は54.5%（前連結会計年度末は50.4%）となりました。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ16百万円減少し、2,275百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果獲得した資金は270百万円（前年同四半期間は497百万円の獲得）となりました。これは主に、役員退職慰労引当金の減少32百万円、棚卸資産の増加24百万円といった資金減少要因があった一方で、税金等調整前四半期純利益の計上454百万円、売上債権の減少111百万円といった資金増加要因があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果支出した資金は28百万円（前年同四半期間は306百万円の支出）となりました。これは主に、定期預金戻入による収入25百万円、保険解約による収入14百万円といった資金増加要因があった一方で、定期預金の預入による支出34百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出35百万円といった資金減少要因があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果支出した資金は262百万円（前年同四半期間は458百万円の獲得）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出144百万円、自己株式の取得による支出49百万円、配当金の支払額69百万円といった資金減少要因があったことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の業績予想について、2023年2月13日に公表した「2022年12月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

なお、業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,318,168	2,310,479
受取手形	28,902	1,828
売掛金	1,133,852	1,084,764
契約資産	16,720	659
未成業務支出金	127,926	152,773
その他	67,467	67,226
貸倒引当金	△11,327	△9,713
流動資産合計	3,681,711	3,608,018
固定資産		
有形固定資産	146,440	148,952
無形固定資産		
のれん	620,769	586,386
その他	83,110	76,947
無形固定資産合計	703,879	663,334
投資その他の資産		
投資有価証券	149,501	187,462
関係会社株式	23,795	18,076
破産更生債権等	67,286	66,377
敷金及び保証金	179,825	196,130
繰延税金資産	45,946	31,716
退職給付に係る資産	67,242	76,253
その他	9,939	9,939
貸倒引当金	△67,286	△66,377
投資その他の資産合計	476,252	519,580
固定資産合計	1,326,572	1,331,867
資産合計	5,008,284	4,939,885
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	340,166	308,362
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	250,177	239,505
未払金	177,778	102,259
未払法人税等	183,961	178,179
賞与引当金	106,304	113,364
その他	360,179	296,068
流動負債合計	1,468,566	1,287,740
固定負債		
長期借入金	666,618	595,087
退職給付に係る負債	13,149	12,743
役員退職慰労引当金	34,783	1,883
その他	47,628	48,029
固定負債合計	762,179	657,745
負債合計	2,230,746	1,945,485

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,455	543,859
資本剰余金	534,334	534,480
利益剰余金	1,456,410	1,630,936
自己株式	△49,694	△83,260
株主資本合計	2,484,506	2,626,016
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,008	60,071
退職給付に係る調整累計額	4,735	5,146
その他の包括利益累計額合計	39,743	65,218
新株予約権	70,906	96,592
非支配株主持分	182,381	206,572
純資産合計	2,777,538	2,994,400
負債純資産合計	5,008,284	4,939,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,208,616	3,263,505
売上原価	1,054,869	1,810,113
売上総利益	1,153,746	1,453,391
販売費及び一般管理費	724,037	1,006,220
営業利益	429,709	447,171
営業外収益		
受取利息	11	17
受取配当金	216	427
受取賃貸料	3,954	3,579
為替差益	10,531	6,010
助成金収入	4,754	—
持分法による投資利益	3,539	—
保険解約返戻金	—	6,395
その他	955	2,867
営業外収益合計	23,964	19,297
営業外費用		
支払利息	1,908	3,441
不動産賃貸費用	2,169	2,303
持分法による投資損失	—	5,718
その他	22	769
営業外費用合計	4,100	12,234
経常利益	449,572	454,235
特別利益		
固定資産売却益	7,289	—
段階取得に係る差益	45,845	—
特別利益合計	53,134	—
特別損失		
固定資産除却損	—	54
特別損失合計	—	54
税金等調整前四半期純利益	502,707	454,180
法人税、住民税及び事業税	161,830	176,008
法人税等調整額	△12,156	10,128
法人税等合計	149,674	186,136
四半期純利益	353,033	268,043
非支配株主に帰属する四半期純利益	17,008	24,191
親会社株主に帰属する四半期純利益	336,025	243,852

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	353,033	268,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△547	25,063
退職給付に係る調整額	744	410
その他の包括利益合計	197	25,474
四半期包括利益	353,231	293,518
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	336,223	269,326
非支配株主に係る四半期包括利益	17,008	24,191

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	502,707	454,180
減価償却費	22,937	36,909
のれん償却額	8,364	69,482
株式報酬費用	32,850	33,517
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,579	△2,638
賞与引当金の増減額 (△は減少)	48,810	7,060
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	△17,211	—
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1,600	△32,900
退職給付に係る資産負債の増減額 (△は減少)	△7,969	△8,823
受取利息及び受取配当金	△228	△444
支払利息	1,908	3,441
固定資産売却益	△7,289	—
固定資産除却損	—	54
保険解約返戻金	—	△6,395
持分法による投資損益 (△は益)	△3,539	5,718
段階取得に係る差損益 (△は益)	△45,845	—
売上債権の増減額 (△は増加)	82,728	111,754
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△18,115	△24,488
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,195	△38,373
前受金の増減額 (△は減少)	51,008	23,333
未払費用の増減額 (△は減少)	△16,125	△22,415
未払消費税等の増減額 (△は減少)	47,948	△51,603
その他	△62,753	△93,739
小計	625,561	463,630
利息及び配当金の受取額	79	133
利息の支払額	△2,049	△3,442
法人税等の支払額	△126,107	△189,638
営業活動によるキャッシュ・フロー	497,483	270,683
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,500	△34,143
定期預金の払戻による収入	3,500	25,542
有形及び無形固定資産の取得による支出	△26,048	△35,601
有形及び無形固定資産の売却による収入	42,256	—
投資有価証券の取得による支出	△1,838	△1,845
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	104,571	3,417
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△424,777	—
貸付金の回収による収入	282	—
保険積立金の積立による支出	△536	△133
保険積立金の解約による収入	—	14,758
投資活動によるキャッシュ・フロー	△306,092	△28,005
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	450,000	—
長期借入金の返済による支出	△97,619	△144,434
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,158	—
ストックオプションの行使による収入	9,762	614
自己株式の取得による支出	—	△49,831
自己株式の処分による収入	153,710	—
配当金の支払額	△56,180	△69,208
財務活動によるキャッシュ・フロー	458,514	△262,859
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,451	3,967
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	656,357	△16,214
現金及び現金同等物の期首残高	1,916,930	2,291,636
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,573,288	2,275,421

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2022年11月24日開催の取締役会決議に基づき、自己株式80,700株の取得を行いました。また、2023年3月29日開催の取締役会決議に基づき、自己株式25,696株の処分を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が33,565千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が83,260千円となっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（追加情報）

前連結会計年度の有価証券報告書（重要な会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PR事業	インフルエンサーマーケティング事業	AI・ビッグデータソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,936,438	272,177	—	2,208,616	—	2,208,616
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,847	33,203	—	36,050	△36,050	—
計	1,939,285	305,381	—	2,244,667	△36,050	2,208,616
セグメント利益	417,150	25,262	—	442,412	△12,703	429,709

(注) 1. セグメント利益の調整額△12,703千円には、のれん償却額△8,364千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,400千円等が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

2022年5月30日付で、株式会社キーウォーカーの株式を取得したことにより、当第2四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より「AI・ビッグデータソリューション事業」を新たに報告セグメントに追加しております。この影響により、AI・ビッグデータソリューション事業のセグメント資産の金額は487,732千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、従来PR事業の単一セグメントでありましたが、第1四半期連結会計期間より、「PR事業」、「インフルエンサーマーケティング事業」に変更しております。これは、株式会社VAZ及びその子会社1社を子会社化したことによるサービス事業の展開に伴い、事業実態に即して報告セグメントを変更するものであります。

また、当第2四半期連結会計期間より、株式会社キーウォーカーを連結子会社化したことに伴い、「AI・ビッグデータソリューション事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

なお、株式会社キーウォーカーのみなし取得日を2022年5月31日としているため、当第2四半期連結累計期間は貸借対照表のみを連結しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

AI・ビッグデータソリューション事業セグメントにおいて、2022年5月31日をみなし取得日として、株式会社キーウォーカーが新たに連結子会社となっております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において684,986千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PR事業	インフルエンサーマーケティング事業	AI・ビッグデータソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,501,549	365,738	396,217	3,263,505	—	3,263,505
セグメント間の内部売上高 又は振替高	500	2,180	1,626	4,306	△4,306	—
計	2,502,049	367,918	397,843	3,267,811	△4,306	3,263,505
セグメント利益	428,791	8,975	73,630	511,397	△64,225	447,171

(注) 1. セグメント利益の調整額△64,225千円には、のれん償却額△64,217千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△8千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。